

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400907		
法人名	株式会社さくらコミュニティサービス		
事業所名	満快のふる郷 さくら発寒 (1階ユニット)		
所在地	札幌市西区発寒6条14丁目17-33		
自己評価作成日	令和 5年 5月 10日	評価結果市町村受理日	令和 5年 6月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvoCd=0170400907-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年5月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所ケア理念の「六つの誓い」を毎日唱和し、各ユニット毎に入居者様に対してその日に意識して行う項目(内容)をきめて、実践し、日々振り返りもおこなって、入居者のQOLの質を高める取り組みをしています。

2019年より、ミャンマー人の介護での外国人技能実習生の受け入れを開始(北海道初)技能実習生の技術指導、日本での技能実習資格試験や日本語試験取得の為の取り組みを行っております。2023年介護福祉士に1名合格しています。

コロナ感染が拡大する前までは、町内会の行事にも参加し、施設に近隣の方々、児童館の子供達も訪れ、交流をはかっております。

また、入居者の終の棲家となるべく、終末期に伴う「看取り介護」も行っており、その方らしく最期まで過ごせるよう、ご家族、医療機関を密にとり実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から20年目を迎える2ユニットの事業所で、JRや地下鉄駅から車で5分程の住宅街に在り、近隣には電気店、コンビニ、ドラッグストア、小学校、公園などが点在し、生活の利便性が良い。敷地内には桜、梅、栗の樹木が茂り、畑を耕したり、花壇を作るなどして、コロナ禍の中、四季に彩りを添え利用者を和ませている。畑の食材を利用する等利用者の満足感につなげている。生きる力と自立を目指したケア理念である「六つの誓い」のもとに主体性を尊重した支援に務めている。毎日、一人の利用者に注目し、全職員が一体となって介護計画とは別に理念の具現化に取り組んでいる。介護計画作成の過程では、担当職員が評価や課題分析を行い、支援内容はパソコンに取り込み、情報共有し、業務の効率化で利用者に寄り添う時間を増やし、本人本位の支援につなげている。地域とはコロナ禍で交流事業は自粛しているが、町内会長とは常に連絡を取り合い、児童館での利用者作品の展示や高校生のインターンシップの受け入れ、近所からのエプロンの寄贈など地域に根差しつつ、相互連携を深めている。殆どの利用者は事業所での終末期を望んでおり、利用者がいつまでも安らげる場所として、職員は日々研鑽に励んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所のケア理念を毎日唱和し、理念に沿ったケアの実践を行っている	全事業所共通のケア理念「六つの誓い」を目につく場所に掲示し、日々唱和している。毎日、全職員が一人の利用者に注目し、理念の具現化に向けたサービスを提供するなど、統一感のある実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	児童館の交流や町内会の行事にも利用者様と参加している	地域とは資源回収への協力、児童館で利用者作品の展示、散歩時の挨拶や手作りエプロンの寄贈などコロナ禍でも以前と変わらない関係性を保っている。高校生のインターンシップの受け入れや介護相談にも応じ地域貢献に務めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	西区のGH連絡会に参加している			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の地域運営推進会議の場（コロナ前は書面会議）町内会役員、地域包括担当からは意見をいただき、運営に役立っている	2か月毎に事業所内会議を行い、運営状況、行事、コロナ感染対策等をまとめた議事録を包括支援センター、町内会役員に配布し、意見等を把握している。	前回の目標達成計画に掲げているが、全家族への議事録の配布や意見の吸い上げには至っていないので、議事録内容を工夫し、多くの意見や助言の促しを積極的に行い運営に反映させることを期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が窓口となり、町内会役員、民生委員、札幌市介護保険指導員の方たちとの関係構築を図っている	行政とは管理者が中心となり情報の交換に努め、利用者の暮らしの改善に向け指導や協力を得ている。感染症対策では窓口支援物資調達に行き、保健所や市の担当者とも電話やFAX、メールを活用し協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的、心理的虐待への理解を深める為、勉強会を実施している、入居者様の行動を妨げず、外出当のニーズにも柔軟に対応（コロナ禍以前）	事業所はリスクマネジメント委員会を設置し、身体拘束や虐待、権利擁護に関わる勉強会を定期的に開催している。職員は禁止対象となる具体的な行為を理解し、正しい支援の周知徹底を図り、日常のサービスを行っている。玄関は夜間のみ施錠し安全確保に務めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内勉強会実施、職員間の知識共有、ケアの統一など、会社としてマニュアルの整備を行っている			

満快のふる郷さくら発寒（1階ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月一回の社内勉強会にて学べるようにしているが、活用の機会を作るのはむずかしく、実施できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者により、契約締結、解約を行っているご家族、本人が不安にならないように、情報開示と説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の在所確認書類と一緒にご家族より意見を記入する用紙を送付している。来訪時には意見希望を伺いケアに反映させている	家族との面会は玄関ドア越しで行っている。毎月送付の「在所確認書」には担当者からの近況報告や季節行事でのスナップ写真を同封して直近の様子を伝えている。アンケート用紙も添付して、意向を把握している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の場や、面談、日々の業務の中で意見交換や提案による業務改善にとりくむようにしている	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、毎月の全体会議で意見交換を行い、介護支援や業務の改善に生かしている。人事考課制度に伴う年4回の評価面談で個々の事情や希望、質の向上、利用者支援等に関しての思いを把握し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度については、本社主体で現在の物の見直し整備中である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修、実践者研修、介護福祉士資格取得研修、会社理念や様々な研修に参加できる機会が多くある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区のGH連絡会、オンラインを使用した勉強会などにも参加し、他の事業者との交流の機会があり、サービスの向上に役立てる取り組みを行っている		

満快のふる郷さくら発寒（1階ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、ケアマネージャーが面会の機会を持ち、ホームの体験見学など行い、要望などの情報収集し、サービス開始前に不安のない関係づくりに務めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や、疑問等が、電話や来訪時に必ずお聞きするようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族に趣味や好きな物など情報を収集し。支援につなげている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴、主体性を尊重し、できる事は自分ができるよう環境整備する事で共に暮らしていくパートナーとして関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度が文書での近況報告をし、行事等は参加を呼び掛け、家族と共に入居者を支える関係に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力で、馴染みの蕎麦屋、喫茶店などに定期的にいかれる方もいるが、コロナ過で一旦中止となっている	コロナ禍で家族限定ではあるが、玄関ドア越しの面会や電話の取次ぎで利用者、家族の安心につなげている。回想法で懐かしい昔話の聞き取りや、得意な事柄を自然な形で話題にしなが、新聞購読、郵便受け取り、暦めぐり、ハーモニカ演奏など、出来ることへの支援を継続している。かかりつけ医も馴染みであり、安心できる関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事作業や、畑の収穫など、一緒に行っていたくなど、関係性が保てるよう支援している		

満快のふる郷さくら発寒（1階ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の看取りを行った家族より、他のご家族入居依頼があり、相談を受ける事もある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での小さなニーズをとりこぼさないよう、ご本人とご家族との会話を大切にしている	理念の実践に向けて、利用者の気持ちや意向を汲み取るために様々なアプローチを行っている。半数の利用者とは意思疎通が可能だが、困難な場合は家族の情報に加え、表情、顔つき、仕草から意向や希望、本人の変化も捉えた把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	病院や居宅事業所からの情報提供や本人ご家族からの情報を参考にしながら把握に努めている。生活歴から今の現状を捉えて、本人にとってより良い支援を考えている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できない事より、できる事に焦点を当てる事でその方の力を発揮できるケアに努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に対する意識改善を行い、その方らしく暮らせる生活の実現を再検討している。その為にアセスメント、モニタリングを担当職員にやってもらえるようにしている	定期や状態変化に沿って本人、家族の意向、全職員等の視点を生かした計画を立案している。担当職員がモニタリング、アセスメントを行い、現状課題の優先順位を見極め、自立を支える計画になっている。計画に沿った支援状況はパソコンで共有し、統一したケアを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りとケース記録、月1回のユニットカンファレンスにて、ケアや、介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族がいつでも気軽に出入りできる雰囲気作り、また写真やお便りなどで様子をお伝えしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加、近隣住民との関わりなど恵まれた環境にある、向かいの電機店、コンビニ床屋を利用したり、児童会館、町内交流会に参加している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携している医療機関と連列がスムーズで、24時間の緊急体制ができています。他科受診、救急時の受け入れ先の紹介などのフォロー体制もある	受診支援は本人、家族の希望を尊重しており、現在は全利用者が24時間対応の協力医の訪問受診を月2回受け、歯科医も週1回訪問し口腔ケアを行っている。専門医等の外来受診は家族支援が基本である。訪問看護師が週1回訪れ、わずかな体調変化にも迅速な対応が可能となっている。	

満快のふる郷さくら発寒（1階ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の連携先の看護師による訪問(コロナ過は電話相談)で健康管理を受けている。必要には、連携の医療機関への連絡し、対応をうける事ができている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と連携を密にし情報が途切れないように努めている。入退院時の説明、病状経過に関する話し合いには参加するようにしている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者に対して、ターミナルケアについての意向をご家族から確認し文書を交わしている。終末期には主治医からの説明と必要に応じて看取りにかんする同意の文書をかわしている	重度化や終末期の在り方は入居時や状態変化に応じて話し合いを重ね、指針の下に同意を得ている。重篤時では主治医を交え看取りの意思を再度確認し、家族、看護師、職員がチームとなり尊厳ある支援に務めている。終の棲家として職員は多くの看取り支援を経験し、学びを深めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医療機関とは24時間の連携体制をとっており緊急時の連絡網を整備している。応急手当や初期対応の訓練はまだ全員の職員は受けていない			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施、消火器訓練、緊急警報装置取り扱い方法の周知と消火器の実演など行っている	日中想定火災避難訓練を年2回実施している。緊急警報装置の操作方法、消火器の取り扱い方の実演と周知に務めている。災害備蓄品を確保しており、業務継続計画の策定に向け検証している。	地震や水害などの自然災害訓練は元より、手薄になる夜間を想定した火災避難訓練及び、入浴時や排泄介助時などの様々な場面を想定した避難訓練の取り組みを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア理念に基づき人格の尊厳とプライバシーの保護に努めている	職員は常にケア理念を念頭に置き、人格尊重の支援に取り組んでいる。呼称は「さん」付けで、同性介助に応じ、入浴時や排泄支援時にはタオルを活用して羞恥心の軽減に務め、個人情報取り扱いにも注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自訴の少ない入居者の思いを汲み取るための関わりができるようにし、色々な視点から積極的な関わりに努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護度が高い入居者が多く、その方らしい生活の実現を検討し工夫、改善をチームで行っている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容、毎日の整容、出かける際に着替えるなどその方らしさを心がけている			

満快のふる郷さくら発寒（1階ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を提供するだけでなく、一緒に作る、盛り付けなどをおこなう事で、五感を使って食事を楽しむ事ができる環境づくりをしている	献立と食材は業者から届き、時にはアレンジしたり、畑の野菜や庭の栗など旬の食材も取り入れ楽しんでいる。「フリーメニューの日」には、利用者の好みに応え、手作り寿司、パイキング、バーベキュー、誕生日にはケーキ、行事やイベント時では仕出し弁当や生寿司の出勤、おやつも一緒に手作りするなど食への関心を引き出している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、食事量、水分量を把握し、食事形態の工夫により、一人ひとりに適した食事提供を行っている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯がある方は自歯を失う事で食生活が変わってしまわないように、食後、起床就寝時の口腔ケアを実施。義歯に方も口腔内の残渣をスポンジで取り除くなど行っている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	バット交換の為のトイレ誘導ではなく、トイレで排泄ができるよう、排泄確認表を活用しその方のリズムを合わせた誘導を行っている	排泄支援は見守りや声掛け誘導、二人介助でのトイレ排泄、ベッド上でのオムツ交換など支援は様々だが、利用者の尊厳保持を踏まえて行っている。布下着や衛生用品、ポータブルトイレの使用は、各自の排泄支援が最適であるか検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、食べ物から便秘の予防ができるよう、乳製品の摂取の提供を行っている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を目安に個人の意向や状況に合わせて入浴支援を実施している	入浴は毎日行い全員が一番風呂を楽しめるよう都度湯の交換をしている。時間帯も好みに合わせ、夕方でも対応している。状態によっては足湯やシャワー浴、清拭で清潔を保ち、拒む場合は湯上りの嗜好品を用意するなど工夫している。1対1では職員との信頼関係も深まり本音が聞ける時間となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の証明や安眠できる環境は個人個人で対応している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関から発行された薬の情報は確認できるように整備。変更がある場合は申し送りで把握して支援にあつたっている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業や新聞を毎日とりに行くなど、日々のルーティンの継続も生活の張り合いとなっている			

満快のふる郷さくら発寒（1階ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のひと々と協力しながら出かけられるように支援している	銀行や、買い物の希望を個別支援にしていると共に、皆さんと一緒にドライブや、町内の集まり（新年会など）にも出かける機会がある	外出制限中は玄関先の見事な桜を眺めたり、畑や花壇の水やり、周辺の散歩で外気浴を楽しんでいる。感染症対策を講じながら、外来受診や年金受給月には銀行に出かけるなど、人々との触れ合いと気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の入居者はご家族と相談し、所持し、買い物など行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事席の他にも、ソファやベンチを設置し気分や状況に合わせて落ち着けるよう配慮している。四季に合わせた行事で季節感が味わえるようにしている	広い玄関には生花が飾られ、各ユニット入り口には温かみのある独自の暖簾が掛けられている。食堂兼居間は広く、対面キッチンでは利用者も家事作業を手伝う場面も見受けられる。壁面には利用者与合作した季節の飾りが展示され、掲示のスナップ写真で追憶の時間を共有している。コロナ禍での衛生管理は徹底しており、利用者は気に入りの場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自発的なコミュニケーションが困難な方には職員が仲介するなど孤立しないようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴れた家具や好みの写真等を置き、落ち着ける環境作りを工夫している	居室には洗面台、カーテン、ベッドが設置されている。入居時に筆筒や椅子、テレビ、衣類など生活必需品の他に仏壇や家族写真、アルバム、ぬいぐるみ、ハーモニカ、自作品などを持ち込み、生活歴を参考に安心できる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームはバリアフリーで引き戸が多く、エレベーターもあり、車椅子や歩行器でも館内を移動しやすい		